

特67

239

颯々

の聲

曲楽譜第三編

301  
92

074994-000-3

特67-239

颯々の聲

高井 敏慎/編

M41

CEL-0918





特67  
239

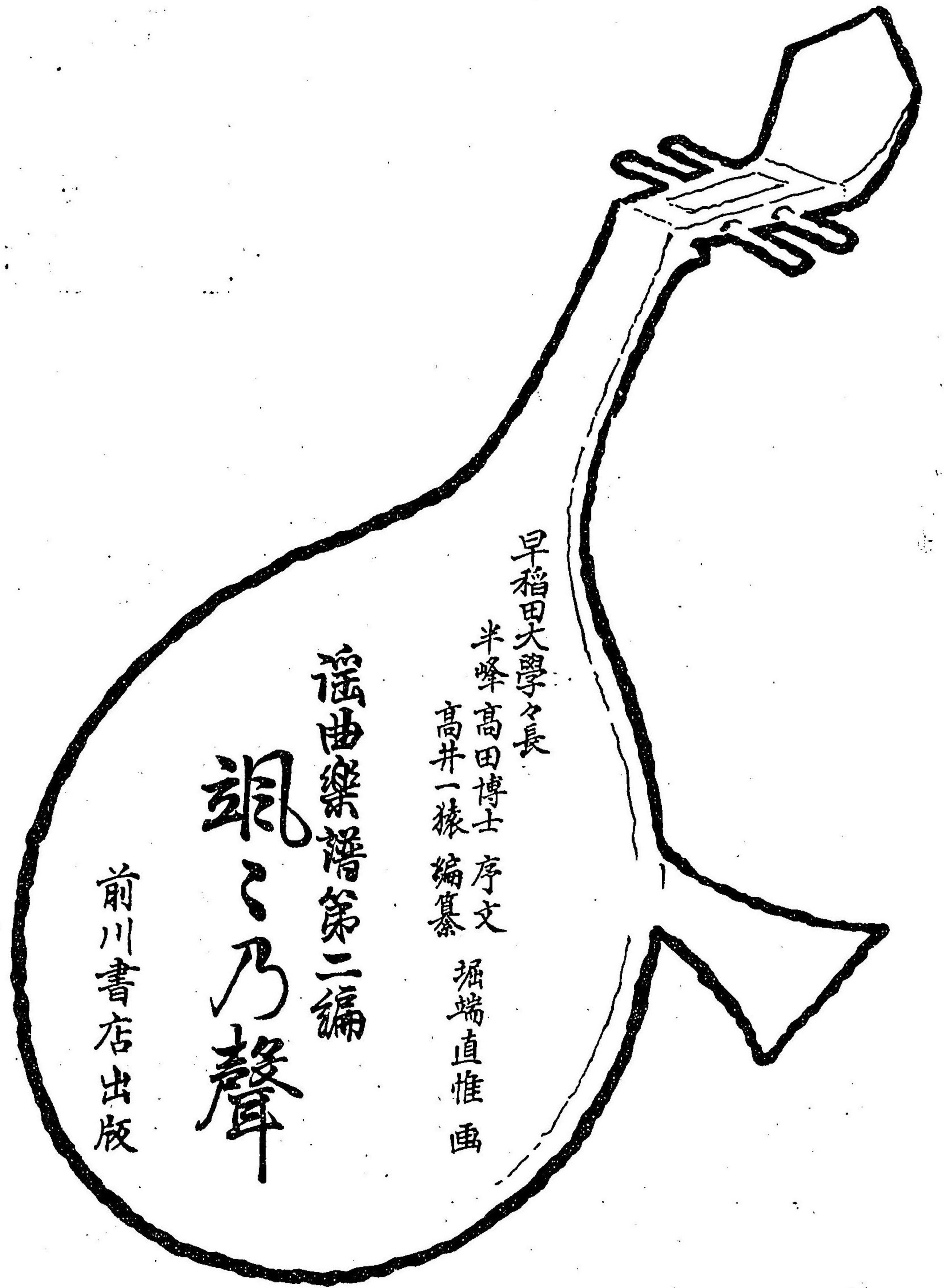
301  
92

樂統は眞の傳承人ふあり樂譜の表はそとに音節の形を  
 尤も況し樂趣の普及を憚らんとせし樂譜もるる外途なきを如何  
 せん吾が謡曲の如きは古より定まれる譜ありといへども僅かに詞を延  
 びし音節の抑揚は知る過ぎますよ、以て即度曲調を的確に  
 示す能はざるを悉く此樂譜の吾の謡曲の眞髓を傳へ得ざるや  
 否やと疑問なりといへども謡曲の古譜に比ぶれば頗る進歩する程度あり  
 方今樂を好む青年士女をして清淡典雅なる謡曲の妙趣を解しよ具  
 著く吾を研究するものため音樂として謡曲の價値を感ぜしむるに完全  
 なる樂譜もたらざるを慮りて高井敏慎氏に見るといふるありて謡曲樂譜を  
 選み予に序を請は乃ち本書の斯樂の發展上其資益するもの多きを  
 以て我思ひ著者の功道に志の厚きを多し平生に所感を述ぶる云爾

戊申 初夏

高田半峰

海堂原書



早稻田大學々長

半峰高田博士序文

高井一様編纂

堀端直惟画

謡曲樂譜第二編

視之乃聲

前川書店出版

明治 19

内交



# 松風 論義

J=80

合唱 Moderato 爽快優美 = *fp*

はこぶは—こほきみちのく—の—のなやち—かのしほが—ま—

獨唱 *Ac* *fp* 合唱 *p*

しづがしほきを はこびし—は—あこきが—う—らにひくしほ

*Ac* *fp*

の—いせ—の—うみのふたみの—うら—ふたたびよにも—い—では—や—

獨唱 *fp* *fp*

まつのむらだちかすむ—にしほが—とほく—なるみが—た

合唱 *fp* *fp*

これは—なるみ—が—たこは—なるほ—のまつかぎに—

*Ac* *fp*

つ—きこ—う—さは—れ—あ—しの—や—

Lento 極行靜 = *fp* *ppff* *fp* *A-tempo* *Ac*

獨唱 *fp* *ppff* *fp* *A-tempo* *Ac*

だ—の—し—は—くむうきみ—ち—とひ—とに—や—たれも—つ—げのくし—

Allegretto 合唱 爽快 = *Ac* *Ac* *fp*

合唱 爽快 = *Ac* *Ac* *fp*

さしくる—しほ—をくみわけて—みればつ—きこ—う—おけに—あれ

獨唱 *Ac* *Adagio* *fp* *Ac* 合唱 *A-tempo*

獨唱 *Ac* *Adagio* *fp* *Ac* 合唱 *A-tempo*

これにも—つきのいりたるや—れし—これもつ—きあ—り

獨唱 *fp* 合唱 *Lento* 獨唱 *fp* *pp* 合唱 *p* *A-tempo* *fp*

つきは—ひとつ—かげは—ふ—た—つ—みつ—し—ほ—の—よ

—るのく—るま—に—つきを—のせて—

行葉をいも風面をわて〜越方をい〜  
 ち〜  
 入道草花の露を雨にまじりて〜  
 葉の目ももる珠を新露を〜  
 うらやみ〜  
 うらやみはあまの世に雲をたかき〜  
 音通る園路たより〜  
 津坂子よ〜



# 録木曲

J=60

合唱 *p* *Andantino* 最静

さくらをみればはるごそに はなすこしおろければ

このきやわがるとこころをつくしうだてしに

*Adagio pp* *pp* *A-Tempo*

いまはわれのみわびてすむ

*Adagio* 精神抜ケル様

さくらきりくべてひきくらになすかなしき

独唱 *Lento* 荘嚴 *pp* *p* *>fp* 合唱 *A-Tempo* *>fp*

さてまつはさしむげに ねだをためはをすかじ

てかありあれとうゑにきしうのかひいまはあらしふく

*Adagio pp* *p* *>fp* *A-Tempo*

まつはもとよりとよきはにて

*p*

たさぎとなるはうめさくらきりくべていまがみかきり

*pp* 精神ヲ入レ

まじのたかくひはれにためなりよくよりてあたりたまへや

桜花の心はさかきくはなすこしおろければ  
 はなすこしおろければ  
 さくらをみればはるごそに  
 はなすこしおろければ  
 このきやわがるとこころをつくしうだてしに  
 いまはわれのみわびてすむ  
 さくらきりくべてひきくらになすかなしき  
 さてまつはさしむげに  
 ねだをためはをすかじ  
 てかありあれとうゑにきしうのかひいまはあらしふく  
 まつはもとよりとよきはにて  
 たさぎとなるはうめさくらきりくべていまがみかきり  
 まじのたかくひはれにためなりよくよりてあたりたまへや







はしがき

本編は謡曲の拍子の這入る部分の歌振り一通りを御紹介申すのであります  
が第一編にも述べて置きました如く何れ日本には古来完全なる樂譜と申すものは  
ありませず其上當時音樂社會には専ら西洋樂譜を用ひらまする便宜  
之を假用し其大略を譯譜致しましたので其歌振りは何卒本譜を基礎と  
し是非古来の口調に依り當時の唱歌風にならざる様願ひたし

本編に掲げました外、拍子の這入る所には尚道行、下同上同(同音又は同吟と  
地にて歌ふ上歌下歌)待詠及切等がありまするが道行、待詠は上歌の歌振り似  
てありますから省きましたので切も太鼓拍子の所は第一編に出しました他の  
の所は「セ」「サ」「ク」「ア」及「ク」「ア」等と一纏にし本編の姉妹編として何れ後  
編に出す考です

西洋の曲は音の高低の變化を多く致してありまするに引替へて日本の曲は  
其變化極めて少く一見單調無趣味の様考へられまするが、それが山水明媚  
所謂地理的變化の多い日本國の音樂としての特色として然かも調和上斯くなくは  
ならぬ事で高尚優美の点も全く茲に存するではあいかと思はれます特に色音  
(艶音又裝飾音)や強弱を巧妙に配置致してある事は西洋樂には餘り多く見ら  
る所にて是が又實に日本人の心情を發起せしむるに有力なる要素ではあ  
らうかと思はれます

歌ふ方々に依りまして歌振りに多少の相違はありますが夫は主に色音の用ひ  
エ合と音の伸び縮みとにある様です音樂は何れ拍子が大切ですから或四分音を八  
分音に縮むるか又は或八分音を四分音に伸ばすとかの場合には其小節内の他  
の音を夫に應じて伸縮し拍子に外れざる様致す事が肝要です時には休止符を  
加減して宜しからうと思ひます

本編編纂上南能衛君は種々有益なる注意を與へられました此段は深く同  
君に謝します

演奏上の注意

裝飾音と基音との連接は兎角判然に失し為めに優美を損するの嫌なきに  
しもあらず此辺充分注意せしめて軟滑に連接せらるべし最初の間は裝飾音の無き  
のと視做して奏せらるべし

強弱の配置は普通の唱歌と多少異なるを以て用語に注意せらるべし用語を記  
さざる音は總て普通の強度にて奏せらるべし

特に用語を記さざる時は概して強音の前の音(若くは其音尾)は弱く弱音の  
音(若くは其音尾)は強く奏せらるべし

比較的高音より比較的低音に移る場合には其低音は概して弱く奏せらる  
べし(裝飾音を帯びたるのは用語の無き限りは強く奏せらるべし)

裝飾音を帯びたる音は特に用語を記さざる限りは總て強く奏せらるべし

裝飾音の強度は基音の夫によらずして其前音の強度を受け奏せらるべし

一曲中に合唱と獨唱との混合せる時は特に用語を記さざる限りは合唱は本  
来の速度にて奏し獨唱は夫より多少速く且靜に奏せらるべし

明治戊申卯月

編者識

第一編 天の羽袖

定價金四拾錢  
郵税金貳錢

世下歡迎せられつゝあゝ謡曲樂譜の初編にて羽衣、藤、胡蝶の  
切を出せり、仕舞及舞踏と合唱は日本人として特に一種の興味を  
感じ普通の唱歌又は進行曲の比にあらざる事は江湖雅君の既に  
許せる如く茲に喋々するの愚をなまざるべし

豫告

第三編 天の裳裾

第一編の姉妹編にて鶴亀、鷲、枕、意、重の切を出すべし

第四編 狸々三井寺

狸々より一種歌ひ振りの異なりたる下り端の所を出し并  
寺に於ては人口に膾炙せる鐘の段及曲を出すべし文章  
歌曲共に妙味の存する所なり

第五編 小謡 其一

高砂、老松及養老より抜萃し總て祝事に歌ふべき  
の八箇所を出すべし

第六編 小謡 其二

第五編の續編にて同く祝事に歌ふべき所を難波、  
吳服、西王母、鶴亀、弓八幡、皇帝、春榮、烏帽子折及  
元服曾我より抜萃し拾箇所を出すべし

以下續々發刊

明治四十年八月十三日印刷  
明治四十一年八月二十日發行

(定價金四拾錢)

著作権  
所有

編纂者 高井敏慎



大阪市東區南久寶寺町四丁目  
十九番屋敷

發行者 前川善兵衛

大阪市西區北堀江通二丁目  
十八番屋敷

印刷者 植田五三郎

發行所

前川書店

大阪市東區南久寶寺町四丁目

十字屋樂器店

京都市三條通寺町東八

十字屋

大取次所





SASSATSU-NO-KOE

UTAI, A MUSIC OF NIPPON

BY

I. TAKAI.

OSAKA MAEKAWA.